

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1196000101		
法人名	(株)ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	坂戸西グループホームそよ風		
所在地	埼玉県坂戸市大字戸口字道々559-2		
自己評価作成日	2020年3月12日	評価結果市町村受理日	令和2年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9
訪問調査日	令和2年3月30日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

弊社の理念が「しあわせ創造企業」を目指します。であり、その理念に基づき入居者様の笑顔をもっと、又自立支援のお役に立てる様、誠意を持って接しております。日課として、散歩・入浴を実施しており、排泄・水分量の確保で認知症状の進行予防と体調のケアを行っております。季節感も忘れがちになってしまうので、玄関先の花壇のお手伝いや外気浴、レクリエーション等も工夫し

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

- 身体拘束の廃止、虐待防止、コンプライアンス等の事業所内研修を実施しています。身体拘束適正化委員会については、年に4回開催するなど職員への指導と適切な支援実施に注力がなされています。
- 地域包括支援センター、区長等の方々に参加し、定期開催がなされています。また夏季には納涼祭と同時に開催しており、工夫した取り組みにより、多くの家族の方の来訪が実現しています。
- 夜間の巡視、記録の確認により安心した生活が確保できるよう努めています。「離床時に転倒しないよう見守りを重視する」「職員向け研修を実施する」など安全への対策を講じるよう努めています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自らが考え、協調した支援に取り組めるよう基本理念に沿った支援を心掛けている。	管理者・職員の牽引により、明るく・前向きな雰囲気がつくられている。隣接する法人内のグループホームと共同のパンフレットには理念がわかりやすく示されており、地域への理解浸透に役立てられている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏休みには学生や一般の方が職場体験や実習に来てくれている。又、理美容院に出掛けたり、地域の行事の参加も行っている。	演芸・傾聴ボランティアの方の来訪など利用者の楽しみとなる催しがなされている。職業体験の受け入れなど地域とのつながりを大事にした運営がなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、地域の方や家族様の参加で、意見交換を行いご理解を頂ける様努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、近況報告をし参加して頂いた方からのご意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	地域包括支援センター、区長等の方々が参加し、定期開催がなされている。また夏季には納涼祭と同時に開催し、多くの家族の参加がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に行われているGH部会等で情報共有をしている。又、直接窓口に出向き協力関係を気付いている。	行政・地域包括支援センター・市内グループホーム・法人本部等と連携し、適切な運営に取り組んでいる。行政等からの指導をもとに防災・単独外出等の対策が話し合われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今、とても力を入れており、1年に4回は身体拘束の研修を行っており、常に介助方法に気を付けている。拘束にならない様なケアを心がけている。	身体拘束の廃止、虐待防止、コンプライアンス等の事業所内研修を実施している。身体拘束適正化委員会についても年に4回開催し、職員への指導に注力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様、年4回の社内研修を行い、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度の講習に参加。現在、成年後見制度が必要と思われる入居対象者様があり、今後の課題でもある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご入居前に契約事項の説明を行い、ご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご面会時にご要望やご意見を伺い、運営に反映している。	毎月家族に送付する「そよ風だより」は担当者からのコメントや利用者の写真を掲載し、利用者の生活と様子を報告している。行事や運営推進会議を通して家族の意見聴取に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月実施している全体会議やフロア会議の際に意見や提案があればその都度議題に出し、運営に反映できるようにしている。	毎月、職員が集いミーティングが実施されており、職員の意見聴取と指導事項周知に努めている。全体会議議事録は職員の捺印をもって確認がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々職員との会話を意識したり、日頃の勤務状況を把握するようにしている。各自が目標を持ち、スキルアップに励んでいる。又、定期的な人事考査で意思の疎通を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修には積極的に参加をしており、ホーム内で行う全体会議の場で勉強会を行い、職員全員が把握できるように努めている。参加できなかった職員には記録を見て理解してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的なGH部会で、情報交換を行い交流を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前に御本人と面会し実態調査を行い、御本人様の要望をお聞きし、安心してご入居できる様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族様から事前に現在の身体状況や困っている事等お聞きしたり、基本情報の記入をお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅の担当ケアマネージャーから、情報を頂いたりして現状把握に努め、必要な支援ができる様に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	いままでの生活歴や職歴の記録や家族様からの話を参考にしてコミュニケーション作りをし生活の中での役割を取り入れている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回のそよ風便りで御本人様の近況報告を行ったり、御本人様の代弁者となり、御家族様にお伝えしたりして良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、馴染みのある理美容院に出掛けたり近隣の散歩等で、地域密着に努めている。	法人の文化祭には製作物を多数出品するなど趣味や楽しみの継続が支援されている。初詣などの習慣、家族との関係性を大事にした支援に取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全員が集まり、お茶や食事を楽しんでもらう時間を作っている。又、行事にも全員参加を心掛けており、出来る事は積極的にお願ひして孤立しないよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、御家族様から野菜を頂いたり、使わないからと、タオル等を頂いている事が続いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の希望・要望に添った支援を心掛けている。又、意思表示が困難な方には御家族様と相談しながら行う様心掛けている。	ケアプラン更新時を中心に利用者・家族の要望を聴取し、ケアに反映するよう努めている。要望と集団生活への適応のバランスを図り、入居したばかりの利用者に対しては少しずつ慣れていけるようサポートがなされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に実態調査を行い、基本情報や生活歴を記入して頂き、現状把握御家族様や居宅からの情報を基に個別ケアに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	御本人のペースで無理の無いよう過ごしていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別のアセスメント・モニタリング、必要なときは担当者会議を行い、御本人や御家族様の意向を基に介護計画を行っている	利用者と家族の思いを聴取し、総合的援助方針が立てられている。健康管理、能力の維持など利用者本位の計画立案に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	昨年からIpadの活用が始まり、介護計画書の活用や個別の担当者会議、支援時に感じた事気づいた事など職員間で情報共有し、ケアの見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物・理美容・受診等、御本人や御家族様のニーズに応じてその都度対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏のボランティアの受け入れ、演芸ボランティア、傾聴ボランティア、演劇ボランティア等地域の方々のご協力のもと、活用させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携している医療機関と月2回の往診と体調等の変化には密に連絡し連携に努めている。入居前のかかりつけ医を希望された場合は御家族様対応で受診の選択もある。	かかりつけ医・訪問看護・訪問歯科・訪問薬剤管理指導等と連携し、利用者の健康管理に努めている。食事・水分量摂取量をはじめ、日々の健康状態を把握し、対応に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問介護体制を行い、入居者様の情報共有を行っている。その他、24時間緊急電話対応も行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に状況報告を行っている。医師から家族様に病状報告がある時は同席させて頂いている。相談員の方との連携も密に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や看取りに関する説明は入居時に説明し同意書を頂いているが終末期には再度確認をしている。終末期ケアや看取りの研修も行っている。	重度化した場合・看取りの対応について指針が作成されている。看取りについての事業所内研修が実施されており、適切な支援に対する理解を深めるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置。全員緊急対応に備え研修、講習を行っている。事故発生時にはマニュアルに沿った対応ができる様研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防の立ち合いでの訓練を行っている。地域の消防団や近隣の住民の方にもお願いをしている。	避難確保計画が策定されており、洪水時の留意と体制について明示がなされている。火災・地震等想定にて避難訓練が実施されている。	台風の経験を活かし、自然災害への備えを更に充実させる意向をもっている。また、より実際を想定した避難訓練の実施を検討している。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	普段から接遇の意識を持つように心掛けている。接遇マナーの研修も行っている。	接遇マナー研修が事業所内年間研修計画に盛り込まれており、利用者の尊厳保持に努めている。受容・視線・テンポ・余裕などを重視した関わりができるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉の誘導になったり、職員に気を使わせることにならない様、本人の思いや来望が伝える事ができる雰囲気作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や個人の性格等を配慮した個々人の支援や出来る限り本人の来望にそった支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理美容院に出掛けたり、鏡を見て整容して頂いている。朝・夜の更衣交換でメリハリをつけてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本のメニューにそいながら、個々人の咀嚼・摂取能力に合わせお粥・刻み・ミキサー食で提供している。ミキサー食提供時には食事内容を伝え提供している。	バラエティに富んだメニューが策定されており、利用者の嚥下状態に沿った食事形態の提供にあたっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々食事摂取量や1日の内水分量1500ccを目安に記録をして健康管理の確認と、体調に応じ栄養補助食品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施をしている。義歯使用者にはポリデント洗浄を実施している。週1回の訪問歯科による口腔ケアも希望に応じ実施している。自身で出来ない方にはスポンジ等使用し口腔内の衛生管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄ができる様、食前食後声掛けしトイレでの排泄行為を意識している。又、日々の記録から排泄パターンを把握しプライバシーに配慮した支援を心掛けている。	排せつの確認と記録によりなるべくトイレでの排せつとなるよう利用者の行動と特性に合わせた支援に取り組んでいる。トイレから離れる際に事故とならないよう留意した支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ便秘薬に頼らず、水分確保、きな粉入り牛乳、野菜、バナナヨーグルト等食べ物の工夫を行っている。又、腹部肛門マッサージや訪問看護による腸の動きも確認してもらい、体調管理を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日々の入浴記録から体調を勘案して入浴支援を行っている。毎日の入浴希望者や1日置き等本人の希望にそった入浴も念頭に行っている。又入浴拒否の入居様にも気分よく入浴してもらえる様工夫しながら行っている。	定期での入浴をケアプランに定め、バイタルの確認、入浴後の水分補給等安全を期した支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や個々人のペースに合わせた休息を心掛けている。夜間覚醒の入居様には、傾聴したりホットミルクを提供しながら安心してもらえるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診毎状態を報告し主治医と密に連絡している。又、調剤薬局の方と薬の用法・副作用を細かく聞いており、薬の変更があった場合は申し送りノート・往診記録に記録しており全員周知できるようにしている。又、見える所に訪問薬剤管理指導所を設置している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活記録や日常会話からできる事を見つけ取り入れている。又、外部からのボランティアの訪問を楽しみにしてくれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日は厳しいが天候によって外気浴・散歩・美容院に出かけている。自宅に戻り嗜好品を持って来る方もいる。又、地域行事に参加したりして気分転換を図っている。	初詣、夕涼み、運動会、ドライブなどの行事を実施し、外出を楽しめるよう支援に取り組んでいる。帰宅についても協力し、家族との関係支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金はトラブルの原因になるので、施設金庫で管理しているが本人が希望した場合は預り金の中から使用している。1部の方は少しは持っていないと不安との事で家族様了承で所持している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を入れ本人が通話している。入居者様数名は携帯電話を持っており、自由に電話をされている。年賀状を書いている入居様もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や食堂の壁、テーブル等入居様の見える所に季節感のある飾り物やカレンダーを飾っている。玄関先の花壇には花を季節毎に入れ替え四季を感じてもらっている。	衛生上の留意、面会・来訪者の制限等々新型コロナウイルス対策を講じている。利用者の穏やかな生活が保たれるよう・不安を助長しないよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂が共同空間であり、ソファーに座って過ごしたり自席でTVを見たりしているが、独りになれる空間は無い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	不安無く過ごして頂ける様、入居時に馴染みの家具や小物等を持参して頂いている。	夜間の巡視、記録の確認により安心した睡眠が確保できるよう努めている。離床時に転倒しないよう見守りを重視するなど安全への対策を講じるよう努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日常生活リハビリとして、日々できる事を繰り返し行い安心した生活を送りながら、自立の維持継続ができるようにしている。		

### 目標達成計画

作成日 : 2020年5月2日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	60	全員での外出行事が難しい。	外出まではできなくても、庭に出る事や近隣へ散歩に出かけ、季節を感じてもらったり、日光浴をする。	天気の良い時は日光浴を行っている。車椅子の方や歩行不安定の方は特に率先して外の空気に触れてもらい気分転換になるよう努める。月にどの位出られたか記録することで全体を把握していく。	6ヶ月
2	55	日常生活動作の支援を行っているが、できる人が決まってしまう。又IADLの低下を緩やかしたい	自分のできる能力を発揮でき、本人主役で生活を送ってもらおう	日常生活動作の支援では出来る事が決まってしまうので、違う側面からの支援も大事。対話や運動可動域の支援も行っているが、今後も本人に合わせた支援に取り込む。	6ヶ月
3		地域や家族様とのコミュニケーションを取る	地域の方、家族様にご理解していただく	理解して頂けていると思わず、もっと施設側からの発信をし、理解を深めていく。暫くはコロナの影響で面会を控えさせて頂いているので、家族様の不安私拭の為に普段より密な連絡をしていく	6ヶ月
4					ヶ月

手続き

①上記に記載 ②行政に 自己評価結果及び外部評価結果・目標達成計画を提出  
 ③右の提出日を記載しこちらの用紙を評価機関にFAXにて送付 (FAX050-3730-1416) 行政への提出日 : 令和 2 年 5 月 7 日